



令和2年10月29日(木)護国神社に集合して寺町を散策しました。晴天に恵まれ新型コロナによるステイホームから解放された楽しいひと時を過ごしました。(5人参加)

十六夜桜(孝行桜)
小泉八雲の十六夜櫻
西行、一遍上人、小林一茶
(220年前、32才)、子規などが訪れている。

山本や寺は黄檗杉ハ秋 子規
黄檗の僧今やなし千秋寺 漱石
西村清臣の墓：歌人、東雲中高
の校長
高橋一洵の墓：山頭火の世話人

拳骨和尚
6歳ころ手
水鉢、大石
を動かして
遊んだ。
220年前

山頭火終焉の庵
明治15年生
大正15年 行乞
昭和15年 没
護国神社社殿創

池泉庭園
もりもりもり上がる雲へあゆむ 山頭火
永井ふさ子の墓
亡父を偲ぶ歌
「ありし日の如くにあんず花咲けりみ魂帰らむこの春の雨」
昭和9年子規33回忌の歌会で斎藤茂吉と知り合う。
ふさ子24才、茂吉52才
後藤又兵衛の墓

足立重信(1563?~1625) 築城1,2年前没
加藤嘉明(1563~1631)
桶狭間の戦い(今川義元1560)
内藤鳴雪(1847~1926)、定昭の小姓、子規俳句の弟子、
常磐会の舎監
大原観山(1818~1875)、子規の祖父、漢学者)
青地林宗(1775~1833)、物理学者・藩医

めがね橋
元禄11年、
花崗岩



書院 天岳楼から池泉庭園
秋はモミジの長建寺

「飲み干せたならば好きな褒美をとらす」とこの日本号という檜は、もとは正親町天皇より室町幕府15代将軍・足利義昭に下賜された、3m以上の大檜で、織田信長、豊臣秀吉を経て、福島正則が所有して天下の名檜であった。

母里太兵衛は自身の危機を救ってくれた礼として、後藤又兵衛(後藤基次)に日本号を贈っている。

後藤又兵衛が黒田長政との確執で、出奔する時「この名檜は浪人する俺には不要。母里太兵衛からもらった大切な檜だから、お前にやろう」と、呑み取り檜と自分の紋を、娘婿の野村祐直に授けている。

後藤又兵衛の娘が、母里太兵衛の弟である野村祐勝(のむら すけかつ)の子・野村祐直の嫁だった為だ。

その檜は、野村家に代々伝わったが大正時代に入ると質に出してしまったようで、炭鋳経営していた旧福岡藩士出身の安川敬一郎と頭山満の2人が案じて買取り、14代当主の黒田長禮氏に献上されていたが、現在は、国宝金印と共に福岡市に寄贈され、福岡市博物館で展示されている。

西村清臣
1903年(明治37年)に作った創作賛美歌「山路こえて」が明治版讚美歌に採用。
1952年(昭和27年)に賛美歌を作った法華津峠に記念の歌碑が立てられた。
1945年(昭和20年)からは松山東雲中学校・高等学校の校長となり、1953年(昭和28年)に引退する。
1962年(昭和37年)には松山市名誉市民になる。西山の姥桜を詠んだ「かげ移る朝日もはなのほひこてひかりまばゆき山桜かな」は、碑となり南江戸町山内神社境内に、また、吉平の孝心に感応して厳寒正月に花を開いた「十六日桜」の由来を記した碑文と短歌「つくしけん人のまことをにほはせてさくかむ月のはつさくらはな」は、旧吉平宅跡にそれぞれ建